

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	GLP小牧IIプロジェクト	階数	地上4F
建設地	愛知県小牧市大字西之島字高拍子	構造	S造
用途地域	工業地域、防火指定なし	平均居住人員	285 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年1月 予定	評価の実施日	2016年10月6日
敷地面積	17,519 m ²	作成者	西松建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	10,343 m ²	確認日	2016年10月6日
延床面積	36,447 m ²	確認者	西松建設株式会社一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆ 100%超:☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.1**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">8.3 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリトキ 2018

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音			3.0	0.15		-		2.6
1.2 遮音			3.0	0.40		-		2.9
1 開口部遮音性能			3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能			3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	0.20		-		
1.3 吸音			2.6	0.35		-		2.6
2 温熱環境								
2.1 室温制御			3.0	0.50		-		
1 室温			3.0	0.38		-		
2 外皮性能			3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御			1.0	0.20		-		
2.3 空調方式			3.0	0.30		-		
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			2.8	0.25		-		2.8
1 昼光率			2.4	0.30		-		
2 方位別開口			2.0	0.60		-		
3 昼光利用設備			3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策			3.0	0.30		-		
1 昼光制御			3.0	1.00		-		
3.3 照度			3.0	0.15		-		
3.4 照明制御			3.0	0.25		-		
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			3.7	0.25		-		3.7
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の建材を採用	4.0	0.50		-		
4.2 換気			4.0	1.00		-		
1 換気量			3.0	0.30		-		
2 自然換気性能			3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33		-		
4.3 運用管理			4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視			3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		全館禁煙とし、喫煙室を設置している	5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			-	0.30		-		3.1
1 広さ・収納性		執務スペース10.08㎡/人	3.2	0.40		-		3.2
2 高度情報通信設備対応			3.3	0.40		-		
3 バリアフリー計画	独自		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性			3.0	0.33		-		
1 広さ感・景観		天井高2.80m、執務者のために適切な位置に窓を設置	3.3	0.30		-		
2 リフレッシュスペース		自販機の設置、リフレッシュスペースを13%確保	4.0	0.33		-		
3 内装計画			5.0	0.33		-		
1.3 維持管理			1.0	0.33		-		
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.30		-		
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震			2.9	0.31		-		2.9
1 耐震性			3.0	0.48		-		
2 免震・制振性能			3.0	0.80		-		
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	0.20		-		
1 躯体材料の耐用年数	②		2.7	0.33		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.23		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			2.0	0.09		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.08		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		主要2用途にB、Eは不使用	5.0	0.15		-		
2.4 信頼性			2.0	0.23		-		
1 空調・換気設備			3.0	0.19		-		
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20		-		
3 電気設備			2.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法	②	耐震クラスA	3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備			4.0	0.20		-		
3 対応性・更新性			3.0	0.20		-		
3.1 空間のゆとり			3.3	0.29		-		3.3
1 階高のゆとり		階高6.60m以上	4.2	0.31		-		
2 空間の形状・自由さ			5.0	0.60		-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.40		-		
3.3 設備の更新性			3.0	0.31		-		
1 空調配管の更新性	②		3.0	0.38		-		
2 給排水管の更新性			3.0	0.17		-		
3 電気配線の更新性			3.0	0.17		-		
4 通信配線の更新性			3.0	0.11		-		
5 設備機器の更新性			3.0	0.11		-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.22		-		

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
		Q3 室外環境(敷地内)						-	0.40
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				2.0	0.30		-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.73		4.0	0.01		-	4.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.28		-	3.0	
3 設備システムの高効率化				4.0	0.42		-	4.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m =0.51		4.0	1.00		-		
集合住宅の評価(3c)							-		
4 効率的運用				2.5	0.29		-	2.5	
集合住宅以外の評価				2.5	1.00		-		
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制				2.0	0.50		-		
集合住宅の評価							-		
4.1 モニタリング							-		
4.2 運用管理体制							-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護				3.0	0.15		-	3.0	
1.1 節水				3.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63		-	2.9	
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自	LGs下地、OAフロアを採用		5.0	0.24		-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-		
1 消火剤				-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)				-	-		-		
3 冷媒				3.0	1.00		-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮				①	ライフサイクルCO2概算値:75%	3.9	0.33	-	3.9
2 地域環境への配慮				2.4	0.33		-	2.4	
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制				3.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-		
1 騒音	独自			3.0	1.00		-		
2 振動	独自			-	-		-		
3 悪臭				-	-		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40		-		
1 風害の抑制				3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制							-		
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策			光害対策を十分に行っている	5.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-		

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	外構緑化:8.3%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	中部地方の物流集積地である小牧に位置し、名古屋市内、及び中部地域全体の広域配送の拠点となるプロジェクト。高床、及び低床バースの設置により、「全方位対応」の物流施設となるよう計画した。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆の建材を採用し、また、全館禁煙として喫煙室を設けるなど、室内環境の向上に努めている。
Q2 サービス性能	執務空間について、一人あたりの執務スペースを10㎡確保し、適切な位置に窓を設置するなど、快適な執務空間としている。リフレッシュスペースも13%確保している。また、空調、給排水配管の更新や耐震クラスもAとするなど、建物のサービス性能の向上に努めている。
Q3 室外環境(敷地内)	標準的な配慮を行っている。
LR1 エネルギー	省エネ計算において、BPI _m =0.73、BEI _m =0.51とし、建物の省エネルギー性能を高めている。
LR2 資源・マテリアル	事務室部分について、LGS下地とOAフロアを採用し、資源・マテリアル項目について配慮した設計としている。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO ₂ の概算値を64%とし、光害対策も十分に行うなど、敷地外環境の向上に努めている。
その他	